

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

E. 学習・研究環境の改善

⑤その他

●富山県立大学工学研究科機械システム工学専攻

「環境調和型高度ものづくり能力の育成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・平成 18 年度から必修科目として新設された「高度実践英語」で習得した英語力を維持・向上させるため、英語講習会および英語による特別講演会を実施した。
- ・英語講習会では、英語による論文作成と口頭発表の基礎に関する講習を定期的に実施した。
- ・外国人講師を招き、英語による特別講演会を定期的に実施した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・英語講習会では、3ヶ年の支援期間中に様々な形態の講習を試み、本学学生の実状にあった講習内容を模索した。また、予算的な制約から学年毎に年1回ずつの実施となったが、単発的なもので終わることの無いよう、博士前期課程1年次の講習内容と博士前期課程2年次および博士後期課程の講習内容の連続性を重視するとともに、教材の充実を図った。
- ・英語講演会では、国内に滞在中の外国人研究者を講師として招くことで、予算を抑えつつ定期的に講演会を開催した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・英語講習会では、本学学生の実状にあった講習内容を構築することができた。特に、口頭発表の講習では、日本人講師とネイティブスピーカー講師によるペアティーチング形式が有効であることが明らかになった。本事業には高い教育的効果が認められたため、支援終了後も継続して講習会を実施している。
- ・英語を日常的に使い、世界で活動している外国人研究者を講師として招き、生の英語に触れる機会を大学院生に提供することができた。特に、英語を母国語としない講師による講演を受けることで、国際的な共通語としての英語の役割を改めて認識する機会となり、英語学習の意欲を増進させることができた。
- ・平成 21 年度には、国際会議（米国機械学会主催 InterPack '09）での発表に対してベストペーパー賞が、また米国機械学会日本支部主催の英語プレゼンテーション大会第1位が授与された。